

普及活動の成果

様式6(左)

課題名 : 地域連携による飼料確保
活動対象 : 肉用牛繁殖農家、酪農農家

振興局名 : 県北振興局
実施期間 : 平成30年4月～
平成31年3月

【対象の概要】

- 管内の繁殖牛飼養戸数は860戸、飼養頭数は8,651頭(H30.4.1現在)で、16地区の各和牛部会により活動している。
管内の酪農家戸数は20戸、飼養頭数は1,188頭(H30.4.1現在)。牛群検定実施農家数は4戸となっている。

【課題設定の背景】

- 肉用牛繁殖経営における子牛1頭あたりの生産費に占める飼料費の割合は4割に達する。そのうち購入飼料の占める割合は7割であり、飼料費高騰による経費増加が課題となっている。
- 酪農経営においては1頭あたりの乳量向上により生産性の向上を図ってきたが、国際的トウモロコシ取引価格の上昇により、生産費の4分の1を占める飼料費が高騰しており経営状況が圧迫されている。一方、地域においても高齢化や米価の下落により水田活用の再編成が検討されており、稲WCSや飼料米、転作作物の検討が成されている

【活動目標】

- 繁殖農家の放牧地確保支援とICTを利用し母牛を放牧地から動かさない飼養形態の確立。
- 高収量をめざした飼料専用品種の最適な作付け時期の確立。
- 酪農家における茎葉型品種の利用推進。

【関係機関との連携(活動体制・役割分担)】

- 各種事業について市町と連携し、実施した。生産性向上に関する現地指導については家畜保健衛生所、JAと連携し取り組み、振興局が先導的な役割を果たした。

【活動経過】

- 平戸市の4農家と、国庫事業を活用して放牧場の拡大を行うため、現地調査、計画書作成、事業申請等の支援を行なった。また、実施意向がある生月町「番岳共同牧野」の再生に向けて、牧柵補修箇所等の現地調査を受益農家交えて行なった。
- 昨年度、田平町に設置した、放牧用の矮性ネピアグラス展示圃について、越冬率や生育状況等を確認し、刈取り時期の指導を行った。全和牛部会総会時、矮性ネピアグラスの放牧利用について推進を行い、また、希望農家の取りまとめを行った。
- ICTを活用した省力放牧の検討では、運営検討会を定期的実施した。課題となった冬季時、放牧地での草量確保を目的に、永年牧草ネピアグラスの実証圃設置を行い、定着に向け施肥管理指導を行った。また、放牧場内での繁殖・分娩管理について、WEBカメラによる観察労力を低減する目的に、「分娩監視通報システム」「発情発見管理システム」の導入検討を行った。また、経営試算の把握の為、畜産協会経営コンサル実施についての調整を行った。
- 田平町の酪農家圃場に設置している茎葉型飼料イネ専用品種3品種「たちすすか」、「つきすすか」、「つきことか」の展示圃について畜産研究部門と連携し、生育、収量調査を実施した。また、展示圃の取組内容について、酪農部会への周知を行った。
- 酪農巡回指導では牛群検定情報をもとに、関係機関(家畜保健衛生所、家畜診療所)と連携し、対象農家2戸(田平町1戸、鹿町町1戸)へ、定期的に巡回指導を実施した。松浦市の酪農家に対し、牛群検定新規加入の推進を行った。また、牛群検定現地検討会(バーンミーティング)での研修先農家等の調整を行った。

【普及活動の成果】

- ・平戸市において、新たに放牧地 2.7ha を拡大できるとともに、放牧頭数を 8 頭増頭できる見込みとなった。また、「番岳共同牧野」の再生に向けて、H31 年度県単事業による牧柵の補改修を実施することとなった。松浦市において、新たに放牧地 1.26ha を拡大できるとともに、放牧頭数を 3 頭増頭できる見込みとなった。
- ・越冬率を調査した結果、約 80% の越冬が確認できた。展示圃において矮性ネピアグラス収穫後、冬作飼料を約 3a 播種することができた。また放牧利用の推進により 9 戸から苗申し込みを取りまとめた。また申し込みとは別に展示圃の株を新規希望農家 2 戸に冬季造成法により 9a 分作付することができた。
- ・畜産研究部門より提供された、矮性ネピアグラス（55 株移植）、ネピアグラス（40 株）について、実証圃を設置することが出来た。「分娩監視通報システム」「発情発見管理システム」については、当該地域の回線状況では動作できないが、現在、島内の回線改修工事（光回線へ）が実施中であり、工事完了後は動作可能になることが確認できた。また、畜産協会による経営コンサルを 12 月に実施出来た。
- ・田平町の展示圃について収量調査を行った結果、他 2 品種と比較し、「つきことか」の穂長が短く、莖葉型の特徴がより出た結果となった。また、展示圃の取組みについて紹介し、推進を図ったところ、新たに、佐世保市の酪農家から莖葉型飼料用イネの作付け希望があり、来年度展示圃を設置することとなった。
- ・田平町酪農家での巡回指導では全酪連により設計された飼料給与内容には、給与している飼料用イネが入っていなかったため、実際の給与内容に合わせるよう給与設計の見直しを指導した。牛群検定新規加入候補の松浦市の酪農家について牛群検定への取り組みへの意向が確認でき、引き続き、推進を図っていく。また、牛群検定現地研修会は柚木町 1 戸と江迎町 1 戸で実施し、県内の関係機関や管内生産者が多数参加し、経営改善方法を学ぶ良い機会となった。

【対象の声】

- ・繁殖管理がうまく出来ていない、改善に取り組んでいきたい。
- ・牛群検定成績表の内容が分かるようになってきた。引き続き巡回指導を願いたい。

【今後の課題】

- ・新たに整備した放牧場については、過放牧等にならないように、定期的な現地巡回を実施する。また、番岳共同牧野の再活用に向けた協議を継続する。
- ・展示圃および今年度新規作付農家において、冬季造成法による株の越冬と放牧面積拡大支援を継続する。また、新たな導入農家に対しては苗の栽培指導を実施する。
- ・永年牧草ネピアグラスの実証圃設置については、次年度、収量調査を行い、更に放牧場内の面積拡大を図る。「分娩監視通報システム」「発情発見管理システム」については、回線工事完了に向けて、機器導入の検討を行う。畜産協会経営コンサルタントの調査結果をもとに、再度、スマート放牧での整備機器について、検討を行う。
- ・本展示圃の結果を部会等で情報提供を行う。また、来年度の展示圃設置農家への設置支援を行い、さらなる莖葉型飼料用イネ専用品種の作付面積拡大を図る。
- ・田平町の酪農家について、今後も定期的な巡回指導を継続し、給与メニューの変更点などの把握、支援を行っていく。また、松浦市の酪農家について、無料で牛群検定が体験できる「お試し検定」を紹介し、牛群検定への加入を推進する。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

- ・なし

【発表・参考資料】

- ・なし